

# 広島県感染症発生動向月報

[ 広島県感染症予防研究調査会 ]  
(平成23年1月解析分)

## 1 疾患別定点情報

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成22年12月分(平成22年11月29日～平成23年1月2日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	208	0.36	7.66	↑	10	百日咳	26	0.07	0.04	→
2	RSウイルス感染症	525	1.46	1.89	↑	11	ヘルパンギーナ	3	0.01	0.03	
3	咽頭結膜熱	391	1.09	0.43	↗	12	流行性耳下腺炎	522	1.45	0.85	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	504	1.40	1.31	↑	13	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.01	
5	感染性胃腸炎	6,198	17.22	12.86	↑	14	流行性角結膜炎	114	1.20	0.73	↗
6	水痘	816	2.27	2.08	↗	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.02	
7	手足口病	23	0.06	0.21	↑	16	無菌性髄膜炎	4	0.04	0.03	
8	伝染性紅斑	34	0.09	0.13	↗	17	マイコプラズマ肺炎	19	0.18	0.29	↘
9	突発性発しん	151	0.42	0.54	→	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成22年12月分(12月1日～12月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	45	2.05	1.97	↗	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	96	4.57	5.44	↘
20	性器ヘルペスウイルス感染症	10	0.45	0.67	↘	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	45	2.14	1.89	→
21	尖圭コンジローマ	12	0.55	0.52	↘	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.10	
22	淋菌感染症	11	0.50	0.83	↘						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)  
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

**急増疾患** インフルエンザ(12件 208件)  
RSウイルス感染症(261件 525件)  
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(247件 504件)  
感染性胃腸炎(2,324件 6,198件)  
手足口病(8件 23件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178(今月は177)の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13,14	19～22	15～18,23～25	
定点数	43	72	19	22	21	177

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	58	結核(58)〔西部保健所(7)、西部東保健所(8)、東部保健所(13)、北部保健所(1)、広島市保健所(15)、呉市保健所(6)、福山市保健所(8)〕
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症(1) O111〔西部東保健所〕
四類	10	A型肝炎(1)〔西部東保健所〕、オウム病(1)〔広島市保健所〕、つつが虫病(5)〔広島市保健所〕、デング熱(1)〔福山市保健所〕、日本紅斑熱(1)〔東部保健所〕、レジオネラ症(1)〔広島市保健所〕
五類全数	5	アメーバ赤痢(2)〔広島市保健所〕、ウイルス性肝炎(1) B型〔広島市保健所〕、梅毒(2)〔西部東保健所(1)、広島市保健所(1)〕

## 3 一般情報

### (1) インフルエンザの流行状況について

インフルエンザの患者報告数が、11月12人から12月208人と急増しました。

また、平成23年第1週(1月3日～9日)の県内の定点医療機関からの患者報告数が、1定点当たり2.02(患者数232人)となって流行開始の目安となる1.0を上回り、第2週(1月10日～16日)には、西部東保健所管内で1定点当たりの患者報告数が、注意報の基準である10を超えたため、1月19日に「インフルエンザ注意報」を発令しました。

1月中旬になり、集団かぜによる学級閉鎖等の報告も相次いでおり、インフルエンザの流行が本格的になっていますので、感染予防を心掛けましょう。

### インフルエンザを予防するための注意点

- ・ 流水と石けんで手洗いを励行し、外出から帰ったときは、“うがい”をしましょう。
  - ・ 睡眠をしっかりととり、偏食せずバランスのとれた食事を心がけ、体力をつけましょう。
  - ・ 咳エチケット( )を守りましょう。
  - ・ 室内は、加湿器などを使って、適度な湿度(50%～60%)を保ちましょう。
  - ・ なるべく人が集まる場所への外出は避けましょう。
  - ・ 予防接種をまだ受けられていない方は、早めに受けましょう。
  - ・ 症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受けましょう。
- 特に基礎疾患(腎臓疾患、心臓疾患、呼吸器疾患等)をお持ちの方や、妊婦、高齢者、乳幼児は合併症を起こしたり、重症化するおそれがありますので注意しましょう。

#### 咳エチケットとは

咳・くしゃみがでたら、他の人にうつさないようマスクを着用する。  
 マスクを持っていない場合は、ティッシュなどを口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけ1m以上離れる。  
 鼻汁・痰などを含んだティッシュなどは、すぐ蓋付きゴミ箱に捨てる。  
 マスクを装着する際は、説明書を読み正しく装着する。

インフルエンザについての詳しい情報は、次のホームページをご覧ください。

広島県「インフルエンザ流行状況」

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/page/1258079048226/index.html>

広島県感染症情報センター

[http://www.pref.hiroshima.lg.jp/hec/hidsc/kansen\\_wadai/zyouhou/inf\\_zyouhou.html](http://www.pref.hiroshima.lg.jp/hec/hidsc/kansen_wadai/zyouhou/inf_zyouhou.html)

### (2) RSウイルス感染症について

RSウイルス感染症の患者報告数が、11月261人から12月525人と急増しました。

RSウイルス感染症は、RSウイルスによって引き起こされる“かぜ”のひとつで、例年11月から3月にかけて流行します。症状は、鼻水、咳、発熱が主ですが、乳幼児では、肺炎や気管支炎を引き起こすことも多く、重症化しやすいので特に注意が必要です。

感染経路は、感染者の鼻汁や喀痰などからの接触感染や飛沫感染であることから、うがい、手洗いを励行しましょう。

### (3) 子宮頸がん予防ワクチン・ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン接種助成事業のスタートについて

お住まいの市町で、  
 〔 子宮頸がん予防ワクチン【対象者：中学1年生相当年齢から高校1年生相当年齢の女子】  
 ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチン【対象者：2ヶ月齢以上5歳未満の者】  
 小児用肺炎球菌ワクチン【対象者：2ヶ月齢以上5歳未満の者】 〕 の  
 接種助成事業がスタートします。是非、この機会にワクチン接種をご検討ください。

なお、詳しい情報は、次のホームページをご覧ください。お住まいの市町の窓口へご相談ください。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/page/1294720744420/index.html>